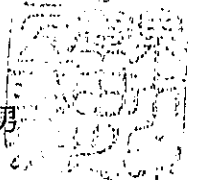


三 幼 第34号の2
令和3年10月19日

地域の幼稚園・学校をまもる会
代表 長谷川 美樹 様

三田市長 森 哲男



三田市立幼稚園再編計画（案）に関する意見交換・市議会本会議
答弁についての質問と要望（回答）

記

1. 質問項目

- ① 少人数意見交換会で、参加者の質問にあった保育運営について、市職員の発言にあった「民間の方が継続性がある」の意図は何か？「公」の役割をどのように考えているのか？
- ② 民間保育の運営に市として（財政的）支援を求める質問に対して、子育てに税金を使うことを惜しむと受け止められる発言「公立だと、ずーっと税金を入れ続けなければならない」の意図は何か？子どもの育ちにしっかりと財政措置をとって保障してこそ、将来の社会のためになるのではないか。
- ③ 9月市議会本会議答弁で、三田市立幼稚園再編計画（案）について、市長は「修正はあり得るが、白紙撤回は考えていない」とされたが、藍中学と長坂中学の統合再編計画を白紙撤回された。今回提案の幼稚園再編計画（案）に、市民理解が進まない場合でも白紙撤回はしないということは、傲慢な市政運営ではないのか？

2. 要望項目

- ① 8月～9月に地域で少人数意見交換会が開催されたが、そこで出された質問・意見と併せ、市の答弁内容を公開することを求める。
- ② 今回提案の幼稚園再編計画（案）にたいして、当該地域全世帯へのアンケート方式による意見募集を求める。（パブリックコメントではなく）
- ③ 今回提案の幼稚園再編計画（案）の進め方で、今後の予定を明らかにしていただきたい。

[回答]

1. 質問項目

- ① 民間の保育事業に対する公費負担は、国・県・市がそれぞれの負担割合に応じて負担しています。一方で、市立の保育施設については、市単独の財源で負担することになります。そうした点を踏まえ、幼稚園跡地を活用した地域型保育事業など検討の可能性が考えられる事例を説明する中で、民間の保育事業に対して、国・

県・市で財源負担する方が市単独で負担するよりも持続可能性が高いとの趣旨でお答えしたもので、「公」の役割についても十分に認識しております。

- ② 上記①とも関連しますが、市立と民間の保育事業では財源に違いがあり、市立の施設の場合には、市単独の財源で運営を続けることになるということを説明いたしました。子育てに税金を使うことを惜しむというような発言はしておりません。本市におきましては、子どもの育ちにしっかりと財政措置をとることが必要であると考えております。
- ③ 9月議会の本会議において答弁しましたとおり、子どもにとっての学びと育ちを充実させ、子育て世代を支援するという目的を達成するために幼稚園の再編は必要であると考えています。再編計画（案）に対しては、様々なご意見があることは承知しておりますが、再編に期待するご意見も頂戴しております。今後につきましては、いただいたご意見を尊重しながら、再編の実施にあたっての懸念や不安に感じていらっしゃることに付いて少しでも軽減すべく、意見交換会や出張意見交換会でのご意見を踏まえて、再編計画（案）の修正を行うこととし、より良い再編計画の策定と実行に努めてまいります。なお、藍中学校及び長坂中学校の再編につきましても教育委員会において、子どもたちにとってのより良い学びの環境について保護者の皆様と協議を行っており、今後、市全体の再編計画の中で検討することとしております。

2. 要望項目

- ① 出張意見交換会は、希望される方からのお申し出により開催しましたので、参加者が限定されることから、参加者の個人情報には十分に配慮したうえで、ご意見や市の考え方などを市民の皆さんと共有するため、その概要を公開する準備を進めているところです。
- ② 市民の皆様からご意見をいただく機会としましては、昨年の9月から10月及び今年の6月に、それぞれ7回計14回の意見交換会を開催しました。また、今年の8月から9月にかけて、希望される方からのお申し出により、出張意見交換会を6回開催しました。これらの意見交換会での意見等を踏まえて、計画案の修正を行い、パブリックコメントを実施し、より多くの皆様のご意見をお聴きしたいと考えております。したがって、当該地域全世帯を対象としたアンケート方式による意見募集を実施する予定はございませんので、ご理解をお願いいたします。
- ③ 今後、意見交換会での意見等を踏まえて、計画案の修正を行い、年内には総合教育会議での議論を経て、パブリックコメントを実施する予定です。

<連絡先>

三田市子ども・未来部 子育て応援室 幼児教育振興課
電話：079-559-5232 FAX：079-563-3611